

平成 25 年度 『四季の郷短期入所』 事業報告書

1. 短期入所

①受け入れ実績

平成 25 年度の受け入れ実績は以下の通りである。

月	男 (のべ日数/実人数)						月計
	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	
4			45/3	20/5	30/4		95/17
5			52/4	29/7	57/6		138/17
6			52/5	43/8	21/3	5/1	121/17
7			48/4	32/6	59/7	2/1	141/19
8			52/5	24/6	78/7	2/1	156/19
9			55/5	24/5	70/6	4/2	153/18
10			48/3	28/6	77/8	4/2	157/19
11			51/3	33/6	87/8	4/2	175/19
12			51/3	33/7	63/5	2/1	149/14
1			51/3	12/4	72/8	2/1	137/16
2			48/3	20/4	75/8	2/1	145/16
3			52/3	19/4	84/8		155/15
区分 別日 数計	0日 0人	0日 0人	605日 44人	317日 68人	773日 48人	27日 12人	1722日 202人
合計 年度 比較	平成 25 年度 のべ1,722日/202人 平成 24 年度 のべ1,098日/176人						

月	女 (のべ日数/実人数)						月計
	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	
4				30/1			30/1
5			2/1	36/2			38/3
6		2/1	4/1	34/2	30/2		70/6
7			2/1	33/2			35/3
8			2/1	35/2			37/3
9			4/1	6/1			10/2
10			3/1	2/1			5/2
11		13/1	1/1	5/1	2/1		21/4
12		16/1	2/1	4/1			22/3

1			4/1				4/1
2			3/1		2/1		5/2
3			3/1				3/1
区分 別日 数計	0日 0人	31日 3人	30日 11人	185日 13人	34日 4人	0日 0人	280日 31人
合計 年度 比較	<p style="text-align: center;"><u>平成25年度 のべ280日/31人</u> 平成24年度 のべ446日/32人</p>						
総括	<p>●<u>合計数：平成25年度 のべ2,002日/233人</u> 平成24年度 のべ1,544日/208人 (日数24年度比1.3倍)</p> <p>●<u>一日平均利用者数：5.5人 <定員8名></u> 年間稼働率 68.5% (24年度52.9%)</p> <p>●<u>利用総日数での男性利用者の割合：86.0%</u> (24年度71.1%)</p>						

②受け入れの状況

今年度受け入れについては、以下のような特徴・傾向が見られた。

(1) のべ利用者人数及びのべ利用日数とも増加が見られたこと

のべ人数・日数の増加は単に前年度より多くの利用者を受け入れた、という意味だけではなく、実際にはそれを上回る利用希望があり、一定の“利用調整”をした(せざるを得なかった)ということである。また、この“利用調整”は、定員には至らないものの居室が同性2人部屋という物理的な受け入れ体制を理由にした“利用調整”と、利用者の障害の程度や特性、宿泊経験、他利用者への影響等への職員の支援体制(ソフト面)を理由にしたものも見られた。

実際、前年度より男性利用者の割合が増えていたり、利用者の多くが強いこだわり傾向があるなどの理由で、他利用者との関係性の面でかなりの配慮が必要な利用者が特に目立った。日中一時支援事業での日帰りの利用を繰り返し試行したり、利用日の配置職員を増やすなどしてできる限りの受け入れをしてきたが、一定の限界も認めなかった。また、一日の平均利用者数(5.5人)のうち3人(年度後半は2人)は、ほぼ年間を通し長期利用している利用者であったが、市町や精神科病院、相談支援事業所等からの長期利用受け入れ依頼を断らざる得ない状況もあった。

(2) 男性利用者にかかなりの増加傾向が見られたこと

前述の通り、特に今年度は男性利用者の多くに一定の事物に強いこだわりを見せる自閉症の特性が見られた。本当はすぐにでも入所利用をしたが施設に空きがないから、と訴える両親も見られた。自閉症利用者への対応や支援方法について、更なるスキルアップの必要性を感じるに至った。一方で女性利用者については、法人内の別の通所事業を利用して、親の用事や施設に慣れるため、という理由が多かった。

③生活支援

新規利用希望者については、必ず面談を行い、日帰り利用や一泊試行利用等から利用者無理にならないよう配慮しながら受け入れを行った。相談支援事業者や精神科病院からの依頼については、必ず本人・ご家族はじめ関係者を交えたケア会議・調整会議等を行った。

支援体制面では、日常支援は棟単位の同性職員での関わりを継続してきた。課業活動支援についても、他の入所利用者同様に課業活動参加等の誘いかけも行ってきたが、日中を通し落ち着く場所となるべく過ごしてもらったり、音楽を聞くなどの好きなことが行える機会を

提供するなど、個別に過ごしてもらった状況も多く見られた。

2. 日中一時支援事業

①受け入れ実績

平成 25 年度の受け入れ実績は以下の通りである。

月	浜松市 (実人数・のべ時間)		磐田市 (実人数・のべ時間)	
	男	女	男	女
4	6 人・117 時間	4 人・254 時間		
5	4・105	4・234		
6	5・104	4・217		
7	6・145	5・241		
8	5・106	4・198		
9	6・179	6・229		
10	5・179	5・234		
11	4・169	6・209		
12	6・288	5・103		
1	4・176	3・142		
2	5・198	3・148		
3	5・178	6・221		
計	61 人 1944 時間	55 人 2213 時間	0 人 0 時間	0 人 0 時間
	4, 1 5 7 時間 (平成 24 年度 3, 016 時間) ◎24 年度比 人数 男性 2.1 倍／女性 1.3 倍 時間数 男性 2.8 倍／女性 0.9 倍			

②受け入れの状況

今年度も、市町の地域生活支援事業の一つとして、浜松市と磐田市の2つの市町と委託契約を締結し事業を実施したが、磐田市からの利用は一件も見られなかった。これは、磐田市内でも一定の受け入れができる事業所が見られるようになったためだと思われる。

今年度の大きな特徴は、男女とも利用者が増加したことである。前年度まで見られていた別の事業の通所利用者が親・家族の仕事が終わるのを待つという利用方法が多くなったことがその主な理由であった。また、通所事業が休みの土日・祝日に一定の時間を利用するという方法も多く見られ、この事業の利用のし易さも背景にあるのではないかと感じた。

ただ、利用者の障害が重くなる傾向があることと、迎えが四季の郷の夕食や入浴時間に重なるなど、体制的に対応が困難な状況も見られた。